

年度目標				年度末評価(自己評価)				
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D	
学習指導	① 報告課題(レポート)内容の見直しを行い、取り組みやすい内容に改善します。評価基準を明確にし、丁寧な添削に努めます。	23	施策IV-23	① 生徒及び保護者を対象とするアンケート	①・③ 各科目のレポートに学習内容と提出期限の一覧、評価基準の詳細が示してある。スクーリングでは評価基準の説明を行い、丁寧な添削を行った。学校評価アンケートの学習指導の項目について、生徒の9割以上が肯定的な回答している。また、今年度からレポートのデジタル提出を導入した。年度当初、紙ベースのレポートは配付すると同時に、MetaMoJi上でも配付し、どちらを使用するかは生徒が選択できるようにした。 ② 一斉スクーリングでは支援が不十分な生徒には、平日個別スクーリングを行い、個々の状況に合わせた支援を厚く行った。 ④ 自校型・他校型ともに受講している生徒は自分の課題に向きあい成長を見ている。教員は各自の課題理解を深められるように生徒に寄り添い、自己理解や自己肯定感が高められるように努めている。	B	・レポートのデジタル提出について 【成果】 デジタル使用でレポート提出日に間に合うことが増えた。また、各レポートに提出期限を明記し、提出期限を守ることを評価にも入れたため、「期限を守ってレポートを提出する」という意識が醸成され、以前よりも期限を守る生徒の割合が増えた。 ・学習支援について 【課題】 生徒の多様化が進み、特別支援のアプローチや、外部機関との連携が求められるケースが増加している。今後このような個別対応が必須となることが予想される。また、関連機関との連携も必要である。 ・通級について 【課題】 通信制で高校通級が実施されるようになって4年目を迎えているが、地区内で高校通級の理解がさらに深まるように努める必要がある。	
	② 個別面接指導(スクーリング)や学習会を活用し、学習に困難を抱える生徒に対してコミュニケーションを大切に、粘り強く支援します。	23	施策IV-23	② 生徒による授業評価アンケート				
	③ わかりやすい言葉での指導やICTの積極的な活用によって生徒が主体となって活動できるように、面接指導(スクーリング)の改善に努めます。	9	施策II-9	⑤ スクーリング出席率、単位修得率 「高校生の学びの基礎診断」の結果				
	④ 通級により、コミュニケーションに困難を抱える生徒に対して生活自立に向けた支援を行います。	21	施策IV-21	④ 該当生徒及び所属校へのアンケート				
生徒指導	① 生徒の実態把握のための各種アンケートの実施・分析を行うと共に、懇談を随時実施し、学級担任を中心に保護者や教科担任・特別支援コーディネーターと連携して、生活及び学習の支援に努めます	3	施策I-3	① 心のアンケート・いじめアンケート・生徒及び保護者を対象とするアンケートの実施と結果分析	①心のアンケートやいじめに関するアンケート等各種アンケートを実施し、結果に対応に役立てた。特性が見られる生徒には担任と懇談したり、個別に対応したりする時間を設けた。 ②文化祭では生徒会企画として生徒主体で活動する時間を設けた。部活動の練習内容を生徒と相談しながら決めた。 ③生徒の状況について職員会議や朝会で情報共有をした。気長・丁寧・親切をこころがけて対応した。	B	心のケアが必要と思われる生徒は適宜SCにつなぐことができた。特性がみられる生徒には対応を協議した後に職員間で共有し、支援を厚くしていきたい。 文化祭では生徒会が主体的に活動することができた。さらに生徒各々が活躍できるようにした。部活動では卓球部加入者が前年度より増加し、全国大会にも出場した。生徒自身が自らの課題の解決に取り組めるよう、働きかけた。 無断で遅刻や欠席をしていた生徒がすぐ戻るを利用して連絡をするようになってきた。昨年度不登校傾向にあった生徒が自ら授業の予約をするようになってきた。	B
	② 生徒の主体性の伸長を図るため、学校行事・部活動・生徒会活動の活性化を図り、生徒が自主的に活動できるように計画的な指導・支援に努めます。	5	施策I-5	② 学校行事・生徒会活動の参加率及び部活動加入者数及び活動状況・大会成績				
	③ 良好な対人関係の構築や社会性を育むために、あらゆる場面を通してコミュニケーション能力の育成を図るとともに、職員間での情報共有を徹底します。	1	施策I-1	⑤ 職員会議・職員室での職員間での情報共有				
進路指導	① 進路ガイダンス及び進路説明会を実施して、生徒及び保護者の進路意識を高めます。	13	施策II-13	① 生徒及び保護者を対象とするアンケート・就業調査	・職員により、保護者に進路講話を生徒に進路ガイダンスを実施した。 ・生徒就業状況及び進路希望調査を実施して実態把握に努め、また適時に進路情報を提供した。 ・随時、進路相談を行うとともに、個別の学力補充、小論文指導、面接指導を実施した。 ・職業適性検査を実施し、職業に対する意識付けを行うとともに外部模試等を実施し、学習状況を把握するための支援を行った。	B	・進路説明会及び進路ガイダンスを実施し、生徒、保護者に有益な情報を提供することができた。 ・卒業予定者を対象に、面接練習、志望理由書や履歴書の添削指導、個別面談等を実施し成果を上げることができた。 ・就職希望者についてハローワーク等の外部機関と連携して指導・支援した。 ・自己肯定感が低く、卒業後の進路に関して「新たな一歩」を踏み出すことが難しい生徒に対して、具体的な進路目標の設定、能動的な進路決定、そして進路実現ができるように、適切な指導や方法の工夫が課題である。	
	② 面接指導(スクーリング)及び個別面談等を通して、自己の能力・適性や可能性に気付かせるとともに、適時に進路情報を提供します。	23	施策IV-23	② 進路希望調査				
	③ 随時、進路相談を行って就労の実態や進路希望を把握し、学力補充・面接指導など卒業後の進路を見据えた指導を個別に応じて実施します。	7	施策I-7	③ 進路先決定状況				
	④ 職業適性検査を実施し、職業に対する意識付けを行うとともに外部模試等を実施し、学習状況を把握するための支援を行います。	8	施策II-8	④ 職業適性検査 外部模試				
その他	勤務時間管理を徹底し、教員間の業務の平準化を行います。	27	施策IV-27	① 勤務時間管理簿の確認	勤次郎による時間外在校時間は適正であり、全職員の退勤も勤務時間終了後すみやかに終わっており、勤務状況は良好であった。	A	職員数が少ないゆえに、コミュニケーションを密にとりながら、チームでさまざまな課題解決のできる職場づくりをすることで、教員間の業務量の平準化を行い、働きやすい環境を作りたい。	

来年度に向けての改善方策等

・これからの入学生生に対応できるよう、教育課程の見直しをしていく。
 ・本課程は基本的に「自学自習」であることを周知しながら、個々の実態に合った学習計画を立て、実施できるよう、気長・丁寧・親切な支援と指導を行う。
 ・レポートの配布や提出、個別の学習支援などにデジタル技術を活用して、できるだけ生徒の利便性を高められるようにしたい。
 ・個別の特別な支援が必要な生徒には、スクーリング時には支援員と連携し、必要であれば平日にも支援を行う。また、SCとのカウンセリングを行うなどし、必要であれば外部機関と連携した支援を行えるような体制を維持する。また、特別支援教育コーディネーターを中心に保護者や外部機関との連携を図り、相談機関の紹介や卒業後も利用できる事業所を紹介し、自立につなげる。
 ・生徒のほとんどが10代であり、卒業後の進路を考える機会や進路決定までの支援がこれまで以上に重要である。進路説明会及び進路ガイダンス等を通じて適時情報を伝えるとともに、適切な支援の方法を工夫する。

学校関係者評価

実施日：令和7年1月24日

・通信制で頑張っている生徒をどうにか卒業できるようにサポートして、守っていつてほしい。
 ・繊細な生徒が多く、そのあたりを深く入ったり聞いたりは大変だと思う。学校に行けない生徒がどれくらいいるかを知らない人は多いので、知ってもらえる場があるとよい。
 ・デジタル化は時代的にも大事であり、双方にとって良いもの。
 ・メンタルが難しい生徒もいると思うので、そのあたりをケアしてほしい。
 ・個々に合った声かけ指導をしていただき感謝している。
 ・パソコンの基本だけでも学べるとありがたいと思います。
 ・進路が少しでも広がるような資格取得の機会や、プログラミングや医療事務等を少し体験してみる機会があると進路選択のヒントになるかと思います。